

II 最近の家計支出の特徴

1 食料の動き

金沢市・全世帯の1世帯当たりの食料費の推移を支出金額割合で見ると、昭和50年と比べると、穀類5.2ポイント、魚介類4.8ポイントと大幅に減少し、肉類、乳卵類、野菜・海藻、果物も減少したが、外食は7.5ポイント、調理食品は7.2ポイントと大幅に増加し、飲料、酒類も増加傾向にある。(図14参照)



(1) 酒類の推移

他の酒は12年の2.3倍

金沢市・全世帯の1世帯当たり酒類の購入金額を、平成7年を100とする指数で見ると、清酒が15年73.9、16年66.3、17年55.8と低下傾向にあり、焼酎は14年293.5、15年374.3、16年401.7と急激に上昇したが、17年は347.4と低下している。

また、ビールについては、同指数が15年53.3、16年53.1と低下傾向が続いたが、17年57.8とわずかに上昇した。

酒類のほとんどが、17年の支出金額が低下しているが、他の酒(果実酒、酒税法上ビールや発泡酒ではない第3のビールなど)は、15年3,059円、16年3,581円、17年4,006円と上昇しており、12年の2.3倍となっている。(図15、16参照)

酒類は、清酒、焼酎、ビール、輸入ウイスキー、国産ウイスキー、ぶどう酒、及び他の酒の7種類に分類して集計してきた。平成12年からは、それまで他の酒に含めていた発泡酒を加え、計8種としていたが、17年からは、輸入ウイスキー、国産ウイスキーを一本化してウイスキーとなり、現在は、計7種として集計している。

図15 年間の1世帯当たりの酒類の内訳の購入金額指数の推移（金沢市・全世帯）

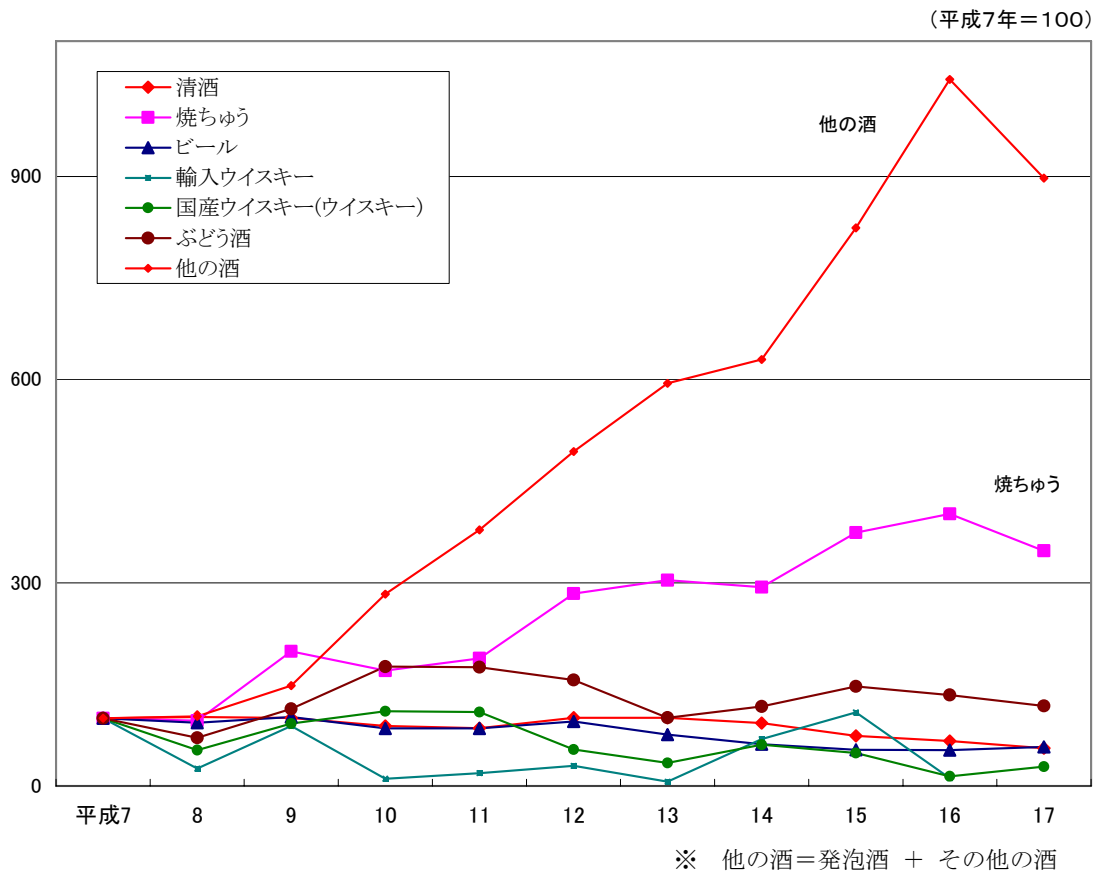
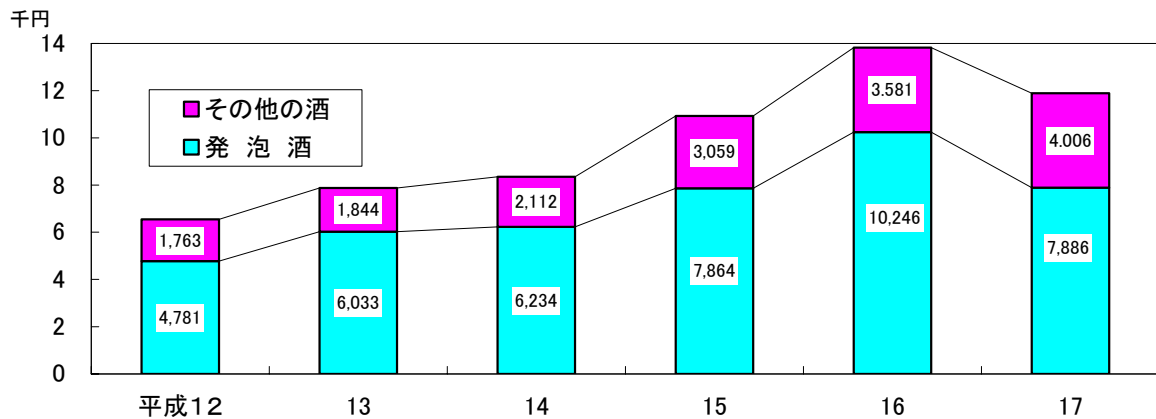


図16 年間の1世帯当たりの他の酒購入金額の推移（金沢市・全世帯）



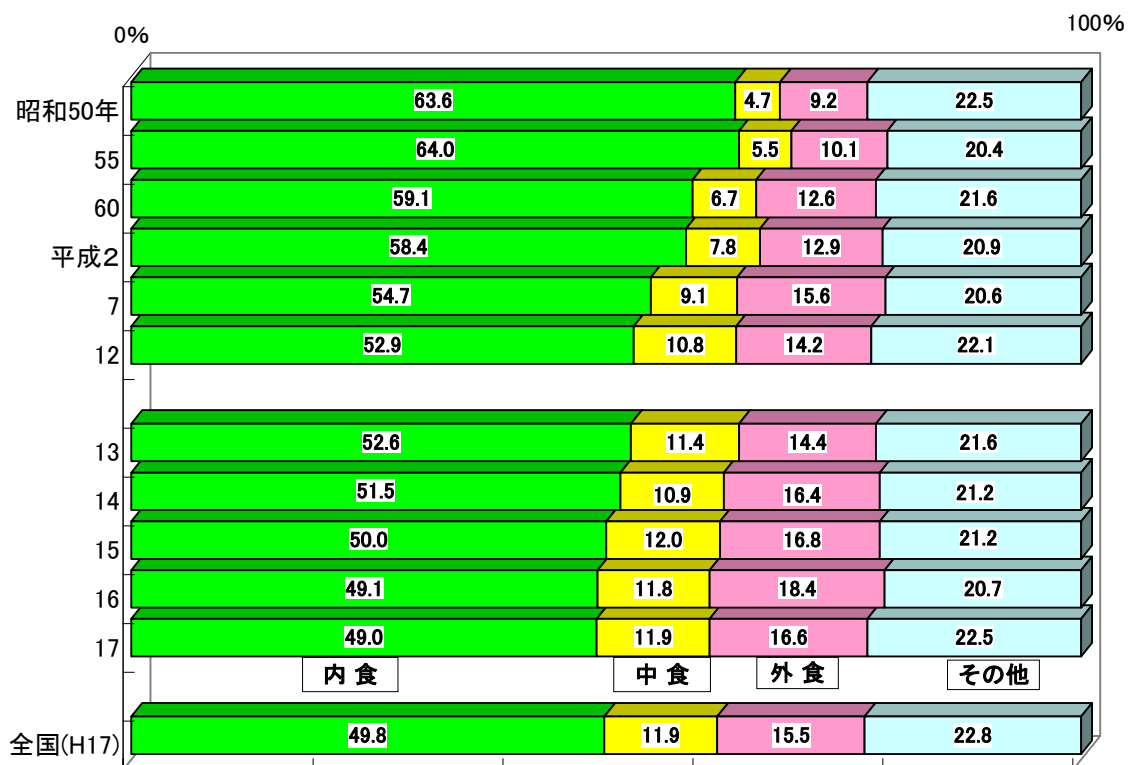
(2) 食形態別にみた食料費の推移

増加する調理食品の利用と外食

食料費を、材料を購入して家庭で調理する^{注)}「内食」、調理済食品を利用する^{注)}「中食^{なかしょく}」飲食店を利用する^{注)}「外食」などの食形態別に分けてみると、「内食」の比率は、昭和50年の63.6%から平成17年の49.0%と14.6ポイント低下した。

一方、「中食」は4.7%から11.9%と7.2ポイント、「外食」は9.2%から16.6%と7.4ポイントの上昇となり、調理食品の利用や外食が大幅に増加した。(図17参照)

図17 食形態別にみた食料費の推移 (金沢市・全世帯)



注) 内食：穀類、魚介類、肉類、乳卵類、野菜・海藻、油脂・調味料
 中食：調理食品
 外食：一般外食
 その他：果物、菓子類、飲料、酒類、学校給食

(3) 金沢市民が昔も今もよく購入する食品

「れんこん」の支出金額は昭和45年以降連続全国第1位

食料の中で、金沢市の1世帯当たりの年間支出金額が、都道府県庁所在市で上位を占める食品をみると「もち」「ぶり」「かに」「れんこん」「生しいたけ」「他の和生菓子」がある。

「もち」「他の和生菓子」は、加賀藩の時代から茶道が盛んなこと、催し物や季節の行事に用いられるほか、贈答品として多く利用されることもあり、上位となっている。

海岸線が長く新鮮な魚介が入手しやすいこともあり、「ぶり」「かに」など生鮮魚介は常に上位を占めている。

なお、「れんこん」の支出金額は、昭和45年以降、連続全国第1位である。(表2参照)

表2 食品の支出金額の推移と全国ランキング(金沢市・全世帯)

(単位:円)

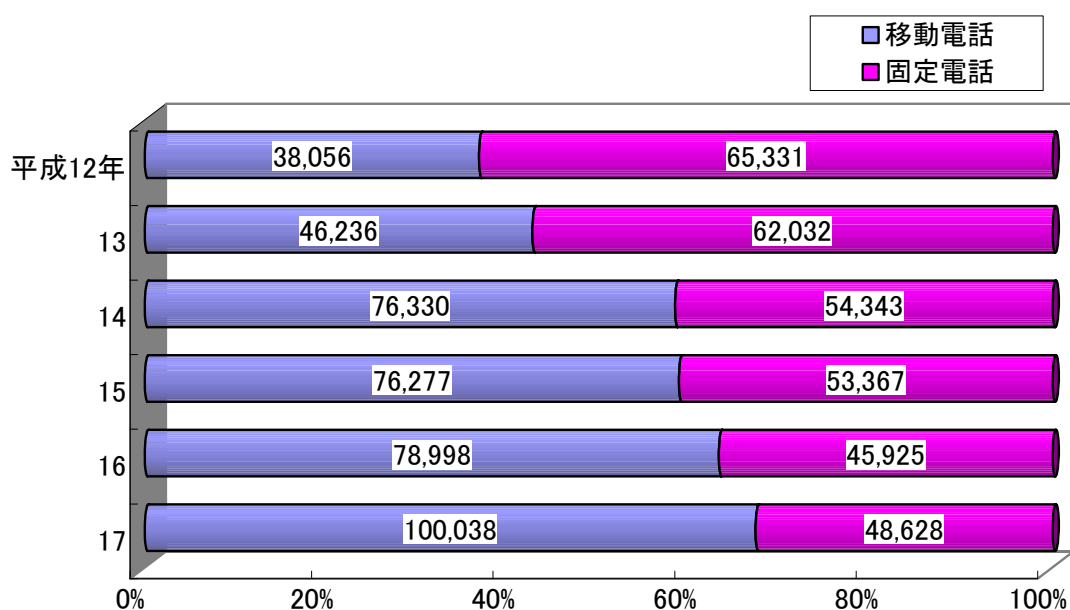
	もち		ぶり		かに		れんこん		生しいたけ		他の和生菓子	
	支出金額	順位	支出金額	順位	支出金額	順位	支出金額	順位	支出金額	順位	支出金額	順位
昭和50年	3,154	8	11,959	2	—	—	1,972	1	1,805	13	7,731	5
55	6,080	1	15,717	2	6,398	1	2,612	1	3,599	1	14,699	1
60	3,393	12	10,838	2	5,137	1	2,217	1	3,160	1	13,097	2
平成2	4,287	3	14,302	2	8,998	2	3,049	1	3,812	1	14,230	3
7	4,027	4	11,776	2	8,897	2	2,415	1	3,252	3	17,202	2
12	4,482	1	12,239	2	9,522	2	2,186	1	2,849	2	19,437	1
13	5,033	1	10,883	2	8,721	2	1,850	1	2,739	1	17,950	1
14	3,766	4	9,009	2	8,952	1	1,998	1	2,363	9	17,787	1
15	4,055	1	8,071	2	7,019	2	1,411	1	2,162	17	16,280	1
16	2,702	9	7,792	2	5,723	2	1,760	1	2,339	4	15,760	1
17	4,113	1	8,276	2	6,204	2	1,882	1	2,360	1	17,256	1

2 情報関連費の推移

増加が続く移動電話通信料

電話通信料が固定電話と移動電話に分離して集計された平成12年以降について、移動電話通信料の年間1世帯当たりの支出金額をみると急激な増加が続いており、14年(76,330円)は、12年(38,056円)の2.0倍、17年(100,038円)は2.6倍となっており、14年以降は、固定電話通信料を上回っている。電話通信料の内訳を比率で見ると、固定電話通信料は、12年63.2%、13年57.3%、14年41.6%、15年41.2%、16年36.8%、17年32.7%と、5年連続減少している。(図18参照)

図 18 年間 1 世帯当たりの電話通信料の支出金額内訳の推移（金沢市・全世帯）



3 貯蓄・負債編

(1) 貯蓄・負債の状況

全世帯の貯蓄現在高は、1,882 万円、負債現在高は、460 万円

平成 17 年平均における全世帯の 1 世帯当たり貯蓄現在高は 1,882 万円で、前年（1,960 万円）に比べて 78 万円の減少となった。また、北陸 1,972 万円と比較すると 90 万円下回り、全国 1,728 万円と比較すると、154 万円上回っている。

負債現在高は 460 万円で、前年（603 万円）に比べて 143 万円の減少となった。また、北陸 491 万円と比較すると 31 万円、全国 501 万円と比較すると、41 万円ともに下回っている。

（表 3 参照）

表 3 年平均の貯蓄・負債現在高の推移（金沢市・全世帯）

項 目	貯 蓄			負 債		
	金沢市	北 陸	全 国	金沢市	北 陸	全 国
平成14年	1,911	1,622	1,688	630	453	537
15年	1,937	1,611	1,690	485	417	508
16年	1,960	1,796	1,692	603	411	524
17年	1,882	1,972	1,728	460	491	501

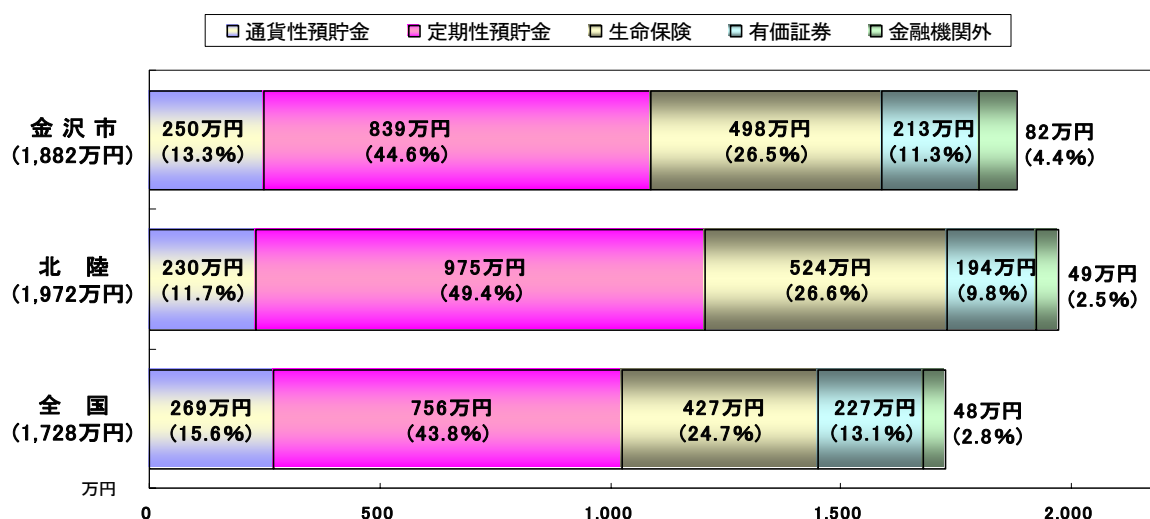
※北陸の数値とは、新潟県、富山県、石川県、福井県の平均値である。

(2) 貯蓄現在高の種類別の状況

貯蓄現在高を貯蓄の種類別にみると、定期性預貯金が839万円（貯蓄現在高に占める割合44.6%）と最も高く、次いで生命保険など498万円（同26.5%）、通貨性預貯金250万円（同13.3%）、有価証券213万円（同11.3%）、金融機関外82万円（同4.4%）となっている。

（図19参照）

図19 貯蓄の種類別現在高及び構成比（金沢市・全世帯）



(3) 負債現在高の種類別の状況

負債現在高を負債の種類別にみると、住宅・土地のための負債が381万円（負債現在高に占める割合82.8%）と最も高く、次いで住宅・土地以外の負債など59万円（同12.8%）となっている。また全国でも、住宅・土地のための負債が最も多く434万円（同86.6%）となっている。（図20参照）

図20 負債の種類別現在高及び構成比（金沢市・全世帯）

